



執行役社長
取締役

田中 一行

不断の研究開発により、 新たな価値創造へ挑戦

日立化成は、1962年、日立製作所より分離独立して、昨年、50周年を迎えました。分離独立時の4製品(絶縁ワニス、カーボンブラシ、積層板、絶縁ガイシ)を源流製品として引き継ぎ、以来、材料技術、プロセス(合成・加工)技術、評価技術を磨き、多くの製品群を生み出してきました。現在、4つの事業領域、つまり、「情報通信・ディスプレイ」、「自動車・交通」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」の各事業領域を重点事業領域と定め、多種多様な材料・部品を提供する企業グループへと成長しました。この間、我々が追求してきたのは、材料・部品の供給にとどまらず、MSS(マテリアル・システム・ソリューション)として、新たな価値をお客様に提供し、お客様へ貢献することを第一に考えることでもあります。

2013年、51年目を迎えた日立化成グループは、次の50年、さらには、100年に向け、歩みをスタートします。不確実性が一段と高まる事業環境の中ですが、研究開発に対する新たな挑戦を通し、成長する企業グループでありたいと思っています。これこそが、企業理念として定めた、「次代を拓く優れた技術と製品の開発を通して社会に貢献すること」を実現することになると信じています。

今回、日立化成テクニカルレポートでは、各事業領域において、我々の新たな挑戦を紹介しています。この節目の年に、未来に対する我々の洞察や展望を踏まえ、日立化成グループの研究開発の方向性を明確にすることは、我々を取り巻くステークホルダーの皆様へ、我々の将来の姿を伝えることになると考えています。

化学製品の中でも、機能性材料として分類される製品群を多種多様に持つことは、日立化成グループの大きな特徴であります。特に、情報通信・ディスプレイ分野では、半導体の前工程や後工程のプロセス材料から実装材料まで、総合的に製品ラインアップを揃える唯一のメーカーであります。この分野の発展に寄与する主導的な材料を提案してまいります。さらに、一層の性能向上や新たな機能発現には、分子レベルまで研究を深めることが、非常に重要になってきております。無機材料から有機材料における、その成果と将来展開を製品分野ごとに紹介してまいります。

自動車部品は、材料技術を生かし、特徴ある製品群を持つ事業分野です。現在、グローバル市場に積極的な展開をするとともに、環境・安全・快適のキーワードの下に、将来の自動車部品の研究開発にも注力しています。材料の特徴を生かした部品展開の進捗について見ていただきたいと思います。

環境・エネルギー分野は、機能性材料、自動車部品に次ぐ、第3の事業として日立化成グループを挙げて育成していく分野と位置付けております。再生可能エネルギーをはじめ、各種エネルギーの有効利用には産業用蓄電デバイスが欠かせません。産業用リチウムイオン電池をはじめとする各種産業用蓄電デバイスの開発、さらには、システムの開発へと事業展開してまいります。材料技術を基に、高信頼性・長期寿命を追求し、日立化成グループの特徴を強化する取り組みを紹介してまいります。

ライフサイエンス分野は、非常に領域の広い事業領域ですが、この中で、日立化成グループは、診断薬とそのシステムに特化し、研究開発を進めております。この分野において、高い技術力を生かしたシステム提案を行ってまいります。

今後、市場は、かつてないスピードでダイナミックに変化し、グローバルに拡大していきます。この変化する市場の中で、日立化成グループは、新たな挑戦を通して成長してまいります。我々自身を日々刷新し、絶え間なく変化する市場に先んじた存在でありたいのです。我々の材料技術に対する深い知見を束ね、お客様のニーズに応じて行くとともに、世界がこの先必要とするものを見だし、お客様の期待を超える価値を提供する企業グループへと成長してまいります。

これを実現するのは、日立化成グループに受け継がれている3つの遺伝子です。新しいものに果敢に挑戦する「開拓者精神」、時代や市場の変化に適応する「柔軟性」、そして、「強いお客様志向」です。この強みを生かし、常に、研究開発を怠らず、企業理念の「次代を拓く優れた製品と技術の開発を通して社会に貢献すること」の実現に邁進してまいります。今後の日立化成グループの活躍にご期待ください。